

背中を強めに押していただいて



取得した資格：技術士（建設部門：道路）
資格取得年度：令和元年度

たぐちともはる
田口朋治*

受験の動機・経緯

「田口君も受けてみない？」髭がダンディーな先輩からの誘いが始まりでした。大学の講義もサボり気味だった私には縁のない資格だと思い、「無理ですやめときます。それに先輩より先に受かってしまうと申し訳ないので。」と冗談交じりでお断りしましたが、「受けてみようよ。じゃあおれが合格したら受けるよね。」と提案され、軽い気持ちで口約束しました。

その年のとある日、「今日、おれ合格したよ。次、田口君の番だね。」と報告を受け、外堀が埋められてしまいました。4月に入り二次試験の申し込み期限が迫ってきましたが、約束したので受験すべきか、あわよくば気づかれずにスルーしたいという思いで葛藤していたところ、期限直前で先輩から背中を強めに押していただき、バタバタと最終日に受験申込書を郵送しました。これが私の受験動機となりました。

そこから、受験するからには受かってやろうと気持ちを切り替えて勉強を始めました。私は当時、子供が0歳と3歳で手がかかる時期であり仕事でも余裕がなかったため、通勤時間や就寝前の1～2時間などを活用して少しずつ受験勉強を進めました。

筆記試験における傾向と対策

○筆記試験の対策は主に以下の方法で実施しました。

①アンテナを立てて幅広く情報収集

受講する部門に関する情報を新聞や雑誌、国土交通省ホームページの審議会等から情報収集。

②国土交通白書の読み込み

何度も熟読して理解し、キーワードを抽出。

③模擬論文の作成、暗記

①や②で得られたキーワードから、過去問を参考に想定問題をイメージし、模擬論文を作成して暗記。試験前には手書きの練習も実施。

上記①～③のルーティーンを繰り返しました。受験経験のある方は誰でも実施している勉強方法であります。筆記試験の問題は、近年の社会資本整備の流れに関することから出題される傾向にあると思われます。

○論文の作成では、以下の点を意識しました。

・問題と課題の明確化

現状を分析し問題（目標と現状とのギャップ、困っていること）、課題（問題を解決するためにやるべきこと）を抽出し明確化する。

・明快で定量的、定性的な文章とする

誰が読んでもわかりやすくなるよう、根拠付けを定量的に行い、考えを定性的に表現する。

受験する前は、技術士の筆記試験では高度な専門

*長崎県 県北振興局 道路建設第二課 改良第二班 主任技師

知識や経験してきた輝かしい実績などをPRすることで高評価が得られるものだと思っていました。しかし実際は、もちろん相応の専門知識は必要ですが、与えられた題意を理解し、まずは十分に現状を分析してから問題点と課題の明確化が重要なポイントであると考えます。そこから課題解決に向けた最適な施策立案までのロジックを限られた時間で組み立てられるかが勝負であります。

口頭試験における傾向と対策

○口頭試験の対策は主に以下の方法で実施しました。

- ・Q&Aの作成、暗記

申込時に作成した業務経歴（体験論文）、技術者倫理等に関するQ&Aの作成、暗記。

- ・模擬面接練習の実施

職場の先輩と模擬面接練習の実施。

受験3回目にして初めて口頭試験の機会を得ることができました。その時、幸運にも同じ職場に面倒見のいい技術士の先輩がいらっしゃったので、積極的に模擬面接練習をしていただきました。

模擬面接練習は職場の昼休みに20分程度、スムーズに受け答えできるようになった頃には、Q&Aは簡易的な項目も含めると50個程度作成していました。

私が合格した令和元年度は、択一試験が論文試験に戻り、口頭試験での評価ポイントに、技術士として求められる資質としてリーダーシップやコミュニケーション、マネジメントの実務能力などが加わった変化の年でもありました。

このため、口頭試験対策は試行錯誤しながらこれまでの傾向を基本として準備し臨みましたが、実際、口頭試験ではこれまでの経験の中でリーダーシップやコミュニケーションに関する質問をされ、受け答えに苦慮しました。

受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

私は二次試験からのチャレンジでしたが、特に参考書も購入せず、民間のセミナーや講座も受講しなくとも、毎日限られた時間を有効に活用することで、なんとか3回目にして合格に結び付けることができました。技術士の資格も日々の努力を積み重ねることで必ず取得できる資格だと思います。

また、私に受験のチャンスやご指導をいただいた諸先輩にも大変感謝しております。筆記試験の勉強では、大分県に2カ月間災害派遣に行った際に、偶然にも同じ大学の技術士の先輩に出会い、ありがたいことに勉強した資料などをもらうことができフル活用させていただきました。仕事や資格受験でも人脈のネットワークは大切で、諸先輩の力は偉大だと実感したところです。

現在、受験している方々も近くに頼れる先輩がいれば、ぜひお力添えをお願いすべきだと思いますし、技術士の諸先輩方につきましても、受験への勧誘や試験のアドバイスやなどを積極的に行うことが若手の技術力向上の足掛かりになるものだと考えます。

近年、我々公務員技術者は内業の複雑化、煩雑化などで現場に出る機会が減り、若手の技術力が低下していると言われます。一方で、住民に対しての説明責任が重要視されてきており、技術士の口頭試験でもステークスホルダーとのコミュニケーションの実務能力などを求められるようになりました。技術者を取り巻く環境も変化してきており、今求められている技術力が何なのか考えさせられました。技術士を受験されている方々も時代に求められる変化に対応していくため、日々技術の研鑽に励んでいく必要があると考えます。

最後に、技術士へのチャレンジは合格するまでの過程で多くのことを学び、技術者として大いに成長させてくれるものと思います。私自身、若輩者でアドバイスできるような立場ではございませんが、この体験記が皆様の一助となれば幸いです。

【著者紹介】 田口 朋治（たぐち ともはる）

昭和61年生まれ。長崎県五島列島の新上五島町出身。鳥取大学土木工学科卒。平成21～22年の2年間はゼネコンに勤務。平成23年に長崎県庁に入庁（土木職）。県北振興局道路建設第一課、長崎港湾漁港事務所港湾課、本庁道路建設課企画・幹線班を経て現職。